

広報

おおの



3月号

平成21年(2009年) No.763

特集 高齢者に安全・安心を

住み慣れた地域での暮らしを支える

P P 6
10 8

越前大野名水マラソン参加者募集
中心市街地活性化リポート③
常陸宮賜杯中部日本スキー大会開催

など

冬の大野を彩る光

多くの市民がまちなかに集った「越前おおの冬物語」。自然の恵みに感謝する気持ちが込められたモニュメントや灯ろうのほのかな明かり、夜空に広がる花火、ぼんやり浮かび上がる越前大野城。幻想的なともしびや鮮やかな光が冬の大野を彩りました。

(2月7日 学びの里「めいりん」)



特集

高齢者に安全・安心を



大野市では、高齢者が住み慣れた地域で、生き生きと生活ができるようさまざまな施策を行っています。

介護保険制度で要介護と認定された人を対象とする介護保険によるサービスの他にも、要介護認定を受けていないすべての高齢者を対象とするものがあります。

ひとり暮らし高齢者の生活支援や費用負担を軽減させるもの、高齢者の家族を支援する主な福祉施策を紹介します。

高齢者のこととは、まず市社会福祉課へ相談してください。

大野市では、高齢者が住み慣れた地域で、生き生きと生活ができるようさまざまな施策を行っています。

介護保険制度で要介護と認定された人を対象とする介護保険によるサービスの他にも、要介護認定を受けていないすべての高齢者を対象とするものがあります。



住み慣れた地域での暮らしが支える

地域ぐるみ雪下ろし (人件費など)



65歳以上の市民税非課税世帯対象

自家の屋根に積もった雪を自力で下ろすことができない六十五歳以上の高齢者世帯や、独り暮らしの身体障害者世帯を対象とし、雪下ろしの人件費を助成します。一回七千円で原則として年二回までです。

マッサージ (はり・きゅうを含む助成券)



70歳以上の人対象

七十歳以上の人を対象とし、マッサージや、はり・きゅうの療養費を助成します。一回五百円で年六回まで市内で使用することができる助成券を交付します。

寝具の洗濯



寝たきり、重度の認知症として台帳に記載された人が対象

要介護度は関係なく、市の台帳に記載された人が対象です。

寝たきりや重度認知症の人が長い時間を過ごす寝床を清潔にし、少しでも快適にするため、年二回、業者が訪問し、掛け布団、敷布団、毛布一枚ずつ洗濯します。洗濯料金の三分の二を助成します。ただし、市民税が非課税の世帯は全額を助成します。

紙おむつ

高齢者の生活支援



常時おむつが必要と認められた人対象

紙おむつが常時必要と認められた人で、要介護認定された人以外にも、それに準じた人を対象に紙おむつを支給します。数量は、月当たり二千五百円分まで、その費用の三分の一を自己負担する必要があります。ただし、市民税が非課税の世帯は、限度額内で全額を助成します。

負担軽減のため

健康面で不安がある高齢者の生活には、健康で若い人よりも多額の費用が必要なことがあります。そのため、その経済的な負担を軽減するため、物品購入などの費用の一部に助成しています。

生活用具

(消火器・火災報知器など)



市民税非課税世帯対象・上限あり

高齢者が独り暮らしをする上で気を付けるなければならない火災。六十五歳以上の市民税が非課税の世帯に消火器や火災報知器、電磁（一戸）調理器などの購入費用を助成します。なお、限度を超える部分は、自己負担が必要です。

ヘルパーの巡回訪問

(定期的な相談)



無料

何かと不安が多い高齢者の独り暮らし。無料で、専門のホームヘルパーが自宅を巡回します。週一回、二十分程度訪問し、身の周りのことなど相談に乗っています。

緊急通報装置の貸与

(24時間通報体制)



市民税非課税世帯対象・無料

健康に不安がある独り暮らしへの高齢者と二十四時間の通報体制が整備された委託業者との間で装置を無料で貸与します。緊急の場合、ボタンを押すだけで電話接続する装置を電話で貸出します。

相談員が適切に対応します。

弁当の配達

(給食)

独り暮らしを支援



1食 300円

高齢者が独り暮らしをしていると食事が単調になります。地域の民生委員が昼食用の弁当を自宅に配達します。月一回、安否確認の意味を込めて食事を届けています。

ホームヘルパーが定期的に巡回したり、地域の民生委員が弁当を配達したりして孤独になりがちな高齢者が人と接する機会を増やすことで不安を解消します。

生活面や健康面の状態を確認する人が自宅にいないことからも、簡単な操作で安全を確保することができます。緊急の場合は、ボタンを押すだけで電話をつなぎ、相談員が適切に対応します。

独り暮らしの不安解消

発信機の貸与

(はいかい時の位置情報発信)



機器貸与無料／情報提供・現場急行自己負担

認知症の高齢者が家族の知らない間に外出してしまう「はいかい」。認知症の高齢者が、はいかいした場合にその人の位置情報を得ることができるので、委託業者への依頼には自己負担が必要です。

短期の介護

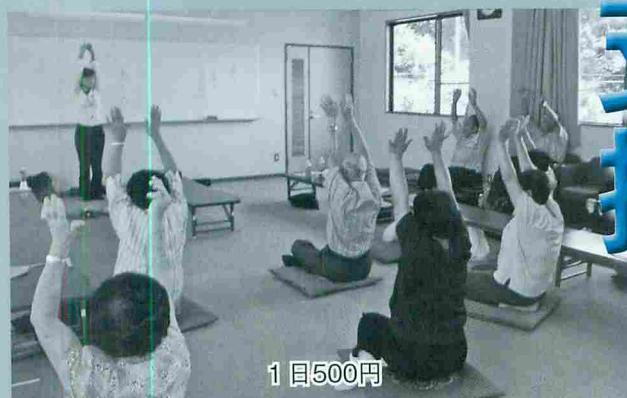
(施設での宿泊)



1日1,730円

家族が一時的な外出などにより、いつしょに暮らしている高齢者の生活を見ることができないとき、その高齢者は養護老人ホーム「和光園」で七日間まで宿泊することができまます。一日当たり千七百三十円が必要です。

家族介護教室



1日500円

高齢者の介護方法や健康づくりの知識などを習得することができる家族のための介護教室を年三回程度（和泉中学校区は一回）、開催しています。食事代とて一回五百円が必要です。

市はさまざまな方法で高齢者やその家族を支援することができます。少しでも安全・安心な暮らしのために、福祉サービスを活用してみませんか。

家族への支援

家族をバックアップ

高齢者を介護する家族には大きな労力が必要です。市では家族の負担を軽減させるよう支援しています。急な用事などでどうしても介護ができない場合に高齢者を一時的に介護してほしいという希望や「はいかい」に対応できないか、家族がどのように高齢者に接すればよいかという不安に対処するため、さまざまな事業を行っています。

ができない用事などでどうしても介護ができない場合に高齢者を一時的に介護してほしいという希望や「はいかい」に対応できないか、家族がどのように高齢者に接すればよいかという不安に対処するため、さまざまな事業を行っています。

手続についての問い合わせ
社会福祉課
(☎66・1111 内線475)

まずは社会福祉課へ
相談を

高齢者のことで悩みや不安があるときは、まず市社会福祉課へ相談してください。市の事業や民間の事業所などによる介護サービスを紹介します。

手続は事業により異なります。手続の例は次のとおりです。

- ▼本人が直接、市へ申請
- ▼地域の民生委員を通じて申請（民生委員は市が紹介）
- ▼在宅介護支援センターを通じて申請（在宅介護支援センターとは、各中学校区に設けられた地域住民の身近な相談窓口のこと）

介護保険制度により、要介護や要支援に認定されると、さらに多くの支援を受けることができます。

市はさまざまな方法で高齢者やその家族を支援しています。少しでも安全・安心な暮らしのために、福祉サービスを活用してみませんか。

5月24日(日)開催

第45回 越前大野名水マラソン

参加者募集



奮つてエントリー

出走順の変更

五月二十四日に、大野市役所前をスタートする第四十五回越前大野名水マラソンが開催されます。

申込締切日は四月二十四日

で、参加希望者は申込書に必要事項を記入し、郵便局で参加料を振り込んでください。市のホームページからも申し込み可能です。

昨年の大会では五種目二十四部門に三千一百三十六人が申し込み。ランニング専門誌「ランナーズ」がマラソン愛好家の投票を基に決定する全国ランニング百選に過去三年連続で選出されるなど、越前大野名水マラソンは全国のランナーに親しまれています。市民の皆さんも全国のランナーと一緒に汗を流しませんか。

新部門の設置

今大会では、十キロとハーフの二種目で一般男子に六十歳以上の部が新設されました。

沿線の皆さんには、協力や声援をお願いします。

今大会から出走順が一部変更されます。

小学親子の部や小学生・中学生の部で出走順を変更します。

10km
コースとハーフが
コース変更

今大会は十キロとハーフのコースが一部変更されます。

従来、スタートからおよそ三キロの地点の下舌で右折していましたが、今回から直進し、上舌で県道から広域農道へ左折します。

また、従来、広域農道から中据で右折し国道一五七号へと入っていましたが、今回からそのまま広域農道を直進し、下郷、森政地頭、開発、友兼、御給、蕨生へと進むことになりました。

ゲスト安部友恵さん

今大会のゲストランナーは安部友恵さんです。安部さんは一九七一年、大分県生まれ。一九四九年の大坂国際女子マラソンで当時の日本記録で優勝しました。フルマラソンの自己ベストはそのときの一時間二十六分九秒です。二〇〇〇年に北海道で行われたサロマ湖一〇〇キロウルトラマラソンでは、女子世界記録で優勝。このときの記録は現在も破られていません。



運営スタッフ募集

大会当日、受け付けや給水などの運営を補助してくれます。スタッフを募集しています。対象は中学生以上で、活動は午前七時から午後二時までを予定しています。申し込みは四月二十四日までに実行委員会へ。

種目 5種目26部門

- 【2^{km}】 小学親子(1~3年の各学年)、小学4年(男子・女子)、小学5・6年(男子・女子)
- 【3^{km}】 中学(男子・女子)、一般男子(40歳以上)、一般女子(高校生を除く)
- 【5^{km}】 一般男子(39歳以下・40歳代・50歳以上)、一般女子(39歳以下・40歳以上)
- 【10^{km}】 【ハーフ】 一般男子(39歳以下・40歳代・50歳代・60歳以上)、一般女子

参加料(保険料込み)

【小中学生】 500円 【高校生】 1,000円
【親子】 1,500円 【一般】 2,000円

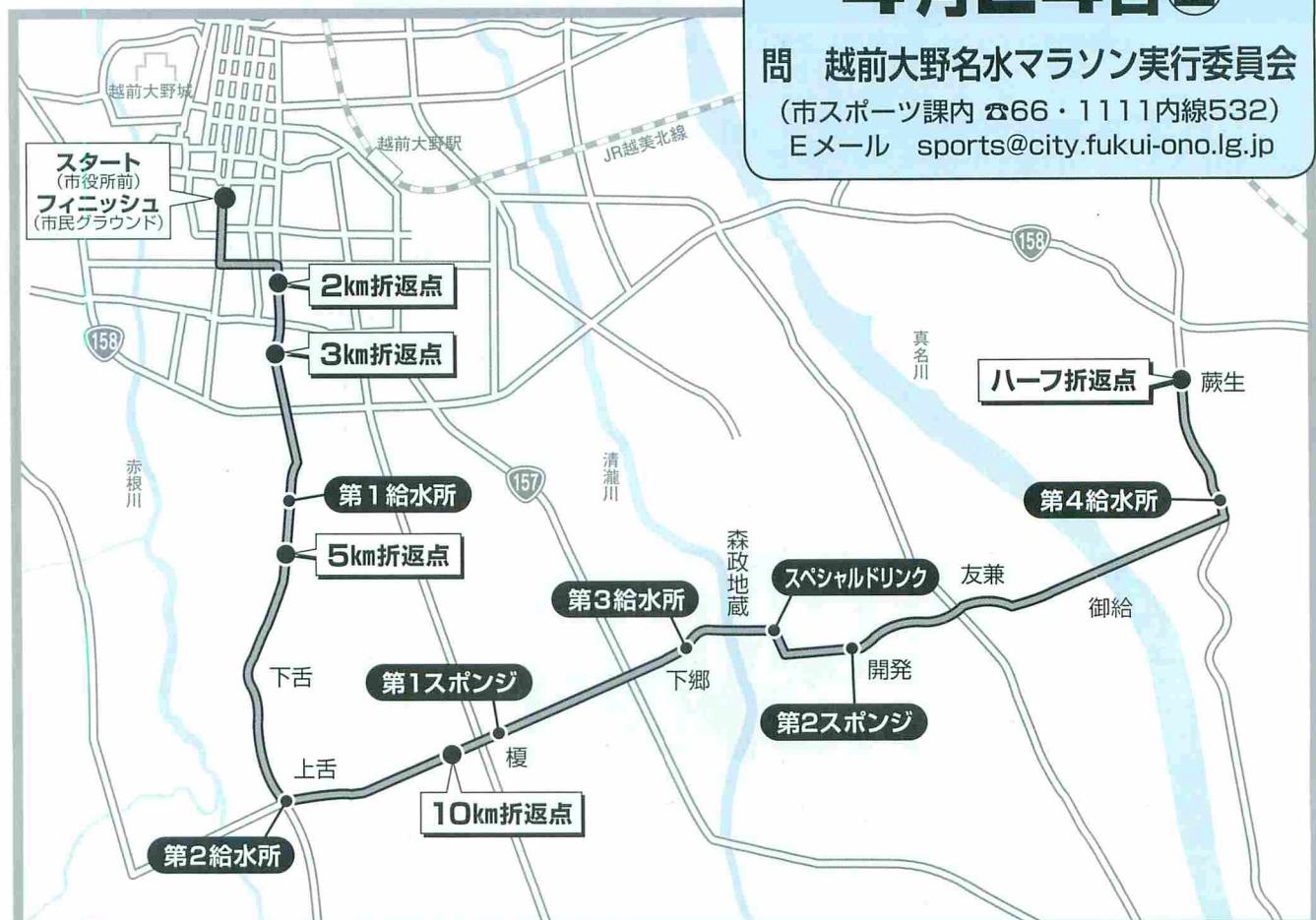
交通規制に協力

大会当日、奥越ふれあい公園、工キサイト広場、学びの里「めいりん」を大会指定駐車場とします。奥越ふれあい公園と工キサイト広場からはシャトルバスを往復運行します。選手も応援する人も会場へは無料シャトルバスを利用してください。

三番通りやこぶし通りの一部など交通規制が行われます。皆さんの協力をお願いします。

**申込締切日
4月24日(金)**

問 越前大野名水マラソン実行委員会
(市スポーツ課内 ☎66・1111内線532)
Eメール sports@city.fukui-ono.lg.jp



魅力ある七間朝市を目指して



七間朝市のイベント「百円市」で若い客と触れ合う出店者（昨年9月7日）

約四百三十年続くとされる七間朝市は、市民の「生活市場」として発展し、「まちなか観光の目玉」の一つです。既存資源の魅力を高めることで、賑わいを取り戻そうとする取り組みを紹介します。

朝市活性化へ新たな一步

市では七間朝市を活性化させることで中心市街地の活性化につなげようと出店者と協議を重ね、運営方法などの改善に取り組んできました。

訪れた人に野菜などを安心して購入してもらうため、出店者は本年度から名前や連絡先などを記載した生産者の情報ラベルを商品に添付しました。また「百円市・ワゴン市」「越前おおの冬物語」などのイベントへ積極的に参加するほか、品質がより高い野菜の作り方などを先進地で学ぶ「視察研修」など新たな取り組みを行っています。

技術向上や集客に向けて

出店者自らが七間朝市の現状と課題を再点検するとともに、次のような計画を立てています。

- ▼観光朝市の先進地である「飛騨高山朝市」の出店者と意見交換を行い、接客の技術を磨く研修を行う
- ▼より多くの人に七間朝市を活用してもらうため、好評を博した「百円市」を月一回開催する
- ▼市外で出向宣伝を行う

意見を聞き課題明らかに

市は市民、市外からの観光客、出店者に対するアンケートを行いました。

その結果を踏まえ、一月に出店者が朝市の活性化に向けた意見交換会を開催しました。値段設定や接客マナーなど利用者の視点に立った課題が明らかになつたことに加え、出店者の高年齢化や後継者不足など出店者側の問題も浮き彫りになりました。